

## 国立民族学博物館研究報告 vol.6-4; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	6
号	4
発行年	1982-03-30
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/00009247">http://hdl.handle.net/10502/00009247</a>

1981・12 6<sub>卷</sub>4<sub>号</sub>

# 国立民族学博物館 研究報告

●  
カヌーと航海にまつわる民話

——マイクロネシア Satawal 島の伝統的航海術の外延—— 須藤健一

SAUCHOMAL, Sabino

スラヴ人における人狼信仰—— 伊東一郎

生業、<sup>いち</sup>市、商人——オアハカ地方経済の中のミヘ社会素描(メキシコ)—— 黒田悦子

文化遺物における製作技術調査法としての紫外線側光の利用について—— 森田恒之

The Classification of Musical Instruments Reconsidered —— SAKURAI, Tetsuo



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

# 国立民族学博物館研究報告

6 卷 4 号

1981年12月

## 目 次

カヌーと航海にまつわる民話 ——ミクロネシア Satawal 島の伝統的航海術の外延——	須藤 健	639
	SAUCHOMAL, Sabino	
スラヴ人における人狼信仰	伊東 一郎	767
生業、 <sup>いち</sup> 市、商人 ——オアハカ地方経済の中のミヘ社会素描(メキシコ)——	黒田 悦子	797
文化遺物における製作技術調査法としての紫外線側光の 利用について	森田 恒之	815
The Classification of Musical Instruments Reconsidered .....	SAKURAI, Tetsuo	824
彙 報		831
国立民族学博物館研究報告 6 巻総目次		835
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		836
国立民族学博物館研究報告執筆要領		837

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

---

Vol. 6 No. 4

December 1981

---

SUDO, Kenichi SAUCHOMAL, Sabino	Folktales of <i>Paniwnap</i> (Great Navigator) on Satawal Island, Micronesia.....	639
ITO, Ichiro	The Werewolf Belief among the Slavic Peoples.....	767
KURODA, Etsuko	Economic Specialization, Markets and Mer- chants: The Mixe Sector of the Oaxaca Market Economy .....	797
MORITA, Tsuneyuki	The Experimental Application of Raking Ultra-violet Ray to the Technical Investigation of Museum Collections.....	815
SAKURAI, Tetsuo	The Classification of Musical Instruments Reconsidered .....	824

彙 報 (昭和56年7月～  
昭和56年9月)

人事異動

食堂・売店選定委員

氏名	任期
小松 左京	(56. 9. 1～58. 8.31)
本間 正義	(56. 9. 1～58. 8.31)
木村 誠	(54. 4. 1～)
佐々木高明	(52. 9. 1～)
祖父江孝男	(52. 9. 1～)

館内各種委員会

展示委員会委員

氏名	任期
祖父江孝男	(56. 4. 1～57. 3.31)
杉本 尙次	(56. 4. 1～57. 3.31)
杉村 棟	(56. 4. 1～57. 3.31)
田辺 繁治	(56. 9. 1～57. 3.31)
和田 正平	(56. 4. 1～57. 3.31)
福井 勝義	(56. 4. 1～57. 3.31)
友枝 啓泰	(56. 4. 1～57. 3.31)
黒田 悦子	(56. 4. 1～57. 3.31)
大森 康宏	(56. 4. 1～57. 3.31)
中牧 弘允	(56. 4. 1～57. 3.31)
煎本 孝	(56. 4. 1～57. 3.31)
山本 順人	(56. 4. 1～57. 3.31)
重松真由美	(56. 4. 1～57. 3.31)
木村 誠	(54. 6. 1～)
安達 香代	(54.12.16～)

広報普及委員会委員

氏名	任期
伊藤 幹治	(56. 4. 1～57. 3.31)
君島 久子	(56. 4. 1～57. 3.31)
和田 祐一	(56. 4. 1～57. 3.31)
石毛 直道	(56. 4. 1～57. 3.31)
小山 修三	(56. 4. 1～57. 3.31)
垂水 稔	(56. 4. 1～57. 3.31)
田辺 繁治	(56. 9. 1～57. 3.31)
杉田 繁治	(56. 4. 4～57. 3.31)

秋道 智彌	(56. 4. 1～57. 3.31)
長野 泰彦	(56. 4. 1～57. 3.31)
庄司 博史	(56. 4. 1～57. 3.31)
宮本 勝	(56. 4. 1～57. 3.31)
木村 誠	(54. 6. 1～)
久保庭伊佐男	(55. 4. 1～)
木野 光郎	(56. 4. 1～)
村瀬 庄蔵	(54. 6. 1～)
安達 香代	(56. 7.15～)

広報普及委員会民博通信編集部

氏名	任期
君島 久子	(56. 4. 1～57. 3.31)
垂水 稔	(56. 4. 1～57. 3.31)
和田 祐一	(54. 4. 1～57. 3.31)
田辺 繁治	(56. 9. 1～57. 3.31)
宮本 勝	(56. 4. 1～57. 3.31)
長野 泰彦	(56. 4. 1～57. 3.31)
秋道 智彌	(56. 4. 1～57. 3.31)
庄司 博史	(56. 4. 1～57. 3.31)

施設整備委員会委員

氏名	任期
佐々木高明	(56. 5. 8～57. 5. 7)
大給 近達	(56. 5. 8～57. 5. 7)
中村俊亀智	(56. 5. 8～57. 5. 7)
小谷 凱宣	(56. 5. 8～57. 5. 7)
端 信行	(56. 5. 8～57. 5. 7)
吉田 集而	(56. 5. 8～57. 5. 7)
木村 誠	(55. 5. 8～)
木野 光郎	(56. 4. 1～)
亀之園藤吉	(55. 5. 8～)
安達 香代	(56. 9. 2～)
佐藤 秀夫	(56. 9. 2～)

国際シンポジウムの開催

「東アジアにおける宗教と家族」

日時 昭和56年8月30日(土)ー9月7日  
(月)

場所 国立民族学博物館

摘要 東アジアの諸民族、諸文化の中には、  
さまざまな宗教が存在し、これが諸制

度、ものの考え方、行動様式、人間関係の上に、いろいろな影響を与え、かつ、大幅に規定してきた。特に大きな伝統を持つものとしては、まず、仏教があり、また、中国から生まれた儒教がある。これらは、広汎な地域にひろがっていったものであるが、限られた地域のものとしては道教、シャーマニズム、そして日本における神道などがある。これらがいずれもさまざまな影響を与えてきた。

中国や韓国における家族制度や対人関係は日本と共通する部分が甚だ多い。今回のシンポジウムでは、中国、韓国、日本の三つの文化を同時にとりあげて、系統的にその共通点、相違点を比較検討しようとするものである。

組織委員会

委員長

梅棹 忠夫 国立民族学博物館長

委員

祖父江孝男 国立民族学博物館第一研究  
部長

佐々木高明 国立民族学博物館第二研究  
部長

伊藤 幹治 国立民族学博物館第三研究  
部長

加藤 九祚 国立民族学博物館第四研究  
部長

岩田 慶治 国立民族学博物館第五研究  
部長

木村 誠 国立民族学博物館管理部長

実行委員会

委員長

祖父江孝男 国立民族学博物館第一研究  
部長・教授

委員

小山 修三 国立民族学博物館第四研究  
部助教授

大森 康宏 国立民族学博物館第三研究  
部助手

長野 泰彦 国立民族学博物館第一研究  
部助手

重松真由美 国立民族学博物館第一研究  
部助手

久保庭伊佐男 国立民族学博物館管理部  
庶務課長

湯浅 叡子 民族学振興会千里事務局長

参加者

米 国

GEORGE Devos カリフォルニア大学教  
授

LOURELL Kendall ハワイ大学研究員

HESUNG C. Koh ヒューマン・リレーシ  
ョンジェイリア・ファ  
イルズ研究部長

LEWIS Lancaster カリフォルニア大学教  
授

WEIMING Tu カリフォルニア大学

MELFORD Spiro カリフォルニア大学教  
授

韓 国

季 光 奎 ソウル大学教授

日 本

尾藤 正英 東京大学教授

藤井 正雄 大正大学教授

森岡 清美 成城大学教授

大石慎三郎 学習院大学教授

尾崎 正治 大谷大学図書館司書

佐々木宏幹 駒沢大学教授

祖父江孝男 国立民族学博物館教授

末成 道男 聖心女子大学助教授

田中真砂子 名城大学短期大学部助教授

日 程

8月31日(月)

10:00 国立民族学博物館見学

18:00 館長主催レセプション

9月1日(火)

9:30 開会の辞 梅棹 忠夫

9:45 第1セッション：問題点と展望

14:00 第2セッション：土着宗教の発展  
討 論

彙 報

9月2日(水)

9:30 第3セッション：世界的宗教

14:00 討 論

9月3日(木)

9:30 第4セッション：歴史的にみた日本の宗教と家族

13:00 討 論

9月5日(土)

9:30 第5セッション：現代の家族と宗教

14:00 討 論

9月6日(日)

9:30 第6セッション：社会化と教育

14:00 討 論

9月7日(月)

9:30 第7セッション：総括および将来の展望

討 論

海外における研究・調査・収集活動

氏 名	官 職	出 発	帰 国	行 先
宮本 勝	助手(第二研究部)	56. 7. 1	56.11.30	フィリピン
栗田 靖之	助教授(第二研究部)	56. 7. 3	56. 9.12	アメリカ合衆国
小谷 凱宣	助教授(第一研究部)	56. 7. 7	56. 7.20	アメリカ合衆国
秋道 智彌	助手(第二研究部)	56. 7. 8	57. 1. 8	パプアニューギニア
片倉 素子	教授(第三研究部)	56. 7.10	56. 8.15	エジプト, イラン, シリア
中牧 弘允	助手(第一研究部)	56. 7.21	56. 9.12	アメリカ合衆国
梅棹 忠夫	館 長	56. 8. 9	56. 8.20	中華人民共和国
小谷 凱宣	助教授(第一研究部)	56. 8.24	57. 8.23	アメリカ合衆国, メキシコ合衆国
櫻井 哲男	助手(第五研究部)	56. 8.24	56. 9. 1	大韓民国
藤井 知昭	教授(第二研究部)	56. 8.24	56. 9. 2	インド
長野 泰彦	助手(第一研究部)	56. 9. 1	56.10.10	インド, ネパール
石毛 直道	助教授(第四研究部)	56. 9.10	56.10.30	イタリア, フランス, 西ドイツ, オランダ
大森 康宏	助手(第三研究部)	56. 9.11	57. 1.11	フランス, セネガル, ニジェール
梅棹 忠夫	館 長	56. 9.12	56. 9.29	ニュージーランド
松澤 員子	助教授(第二研究部)	56. 9.14	56. 9.20	台湾
松山 利夫	助手(第一研究部)	56. 9.23	56.10.14	中華人民共和国
ケネス・ラドル	外国人研究員 (第五研究部)	56. 9.27	56.11. 5	中華人民共和国, オーストリア

来館者抄

7月2日 梅岡 義貴(学習院大学教授  
文学部)  
11日 中国科学院代表团  
郁 文(団長)  
周 明 鎮(副団長)

季 乗 枢

崔 泰 山  
孫 艾 玲  
葉 祥 奎  
王 存 義  
丁 学 泉

- 28日 アフリカ大学連合代表団  
Victor Anomah NGU (アフリカ大学連合会長, ヤウンデ大学副学長・カメルーン)  
Nicholas Alfred KUHANGA (ダルエスサラーム大学副学長・タンザニア)
- 8月4日 Kenneth L. Richard (トロント大学東アジア学部副部長)
- 7日 Mupanga MWANAKATWE (ザンビア大学理事)
- 17日 大林 辰蔵 (宇宙科学研究所研究主幹, 教授)
- 18日 李 慶 成 (韓国国立現代美術館長)
- 27日 奥田 八二 (九州大学教授)
- 31日 池上 二良 (北海道大学教授 文学部)
- 9月1日 L. W. Shears (オーストラリア・ビクトリア州教育省次官)
- 4日 Eloisa Ricatti (イタリア教育省国際部長)  
Chiara Aceto Vaciago (同 文化交流局長補佐)
- 10日 吉武 泰水 (九州芸術工科大学長)
- 11日 James Watson (アメリカ合衆国コールドスプリングハーバー研究所長)  
渡辺 格 (慶応大学教授)



---

国立民族学博物館研究報告 6巻 総目次

---

6巻1号

栗田 靖之：海外駐在員の生活と意識調査報告……………	1
八村廣三郎	
秋道 智彌：“悪い魚”と“良い魚”——Satawal 島における民族魚類学—— ……	66
小川 了：フルベ族，ジェンゲルベ・グループの移牧に関する事例報告……………	134
森田 恒之：国立民族学博物館の展示と保存環境に関する検討 ——異常環境の発見を主として—— ……	159
中村俊亀智：背中あての諸形態——国立民族学博物館所蔵の標本資料によって—— ……	183

6巻2号

祖父江孝男：県民性再考——文章完成法テストにあらわれた日本人パーソナリティの地域差—— ……	217
西田 正規：縄文時代の人間—植物関係——食料生産の出現過程—— ……	234
重松真由美：チノギ賽神における祖上と神霊——韓国京畿道楊州郡K洞の事例—— ……	256
伊東 一郎：言語的ブリコラージュとしてのフォークロア ——ロシア・フォークロアにおける語源的文彩 (figura etymologica)—— ……	283
山崎 光子：国立民族学博物館所蔵のドンザ——形態，材質，染織の分析—— ……	319

6巻3号

小山 修三：『斐太後風土記』による食料資源の計量的研究……………	363
松山 利夫	
秋道 智彌	
藤野 淑子	
杉田 繁治	
大森 康宏：パリの日本人学校における文化背景の異なる生徒をめぐって……………	597

6巻4号

須藤 健一：カヌーと航海にまつわる民話 SAUCHOMAL, Sabino ——ミクロネシア Satawal 島の伝統的航海術の外延—— ……	639
伊東 一郎：スラヴ人における人狼信仰……………	767
黒田 悦子：生業，市，商人——オアハカ地方経済の中のミヘ社会素描(メキシコ)—— ……	797
森田 恒之：文化遺物における製作技術調査法としての紫外線側光の利用について……………	815
SAKURAI, Tetsuo: The Classification of Musical Instruments Reconsidered……………	824

## 国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
  - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
  - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
  - (3) その他本館において適当と認めたる者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（改文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会での処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当たっては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1  
国立民族学博物館内  
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

## 国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]  
[Leach 1961: 123]  
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
  - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること
  - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』 13(4): 311-330。

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.  
In Eric H. Lenneberg (ed.), New Directions in the Study of Language,  
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』 堀 一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 6卷4号

監 修  
梅 棹 忠 夫  
編集委員長  
伊 藤 幹 治  
編 集 委 員  
石 森 秀 三  
煎 本 孝  
片 倉 素 子  
竹 村 卓 二  
垂 水 稔  
松 原 正 毅  
吉 田 集 而

---

昭和 57 年 3 月 30 日 発 行 非 売 品

国立民族学博物館研究報告 6卷4号

編集・発行 国立民族学博物館  
〒565 吹田市千里万博公園10-1  
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印 刷 中西印刷株式会社  
〒602 京都市上京区下立壳通小川東入  
TEL 075 (441) 3155 (代表)

---

Bulletin of the National Museum of Ethnology  
vol.6 no.4  
December 1981

- |                          |   |
|--------------------------|---|
| <b>SUDO, Kenichi</b>     | <b>Folktales of <i>Panúwnap</i> (Great Navigator) on Satawal Island, Micronesia</b>                                 |
| <b>SAUCHOMAL, Sabino</b> |   |
| <b>ITO, Ichiro</b>       | <b>The Werewolf Belief among the Slavic Peoples</b>   |
| <b>KURODA, Etsuko</b>    | <b>Economic Specialization, Markets and Merchants: The Mixe Sector of the Oaxaca Market Economy</b>                 |
| <b>MORITA, Tsuneyuki</b> | <b>The Experimental Application of Raking Ultra-violet Ray to the Technical Investigation of Museum Collections</b> |
| <b>SAKURAI, Tetsuo</b>   | <b>The Classification of Musical Instruments Reconsidered</b>   |



National Museum  
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan  
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X